

## 特別研修

### 月例研究会 議事録 ( 1 月 )

2010 年度第 13 回

報告題名 仮想水に基づく日中農業品貿易の研究

報告者 林文強

日時 1月20日 午後3時～

(所属分野) フィールド社会技術学

場所 第2講義室

座長 北村

議事録担当者 八木

#### 出席者

長谷部、木谷、安江、小山田、米澤、米倉、冬木、高篠、伊藤、石井、阿部(美)、菅井、韓、スチン、八木、宮本、福田、宮里、渡邊、易思、威廉、王、北村、金(詰)、滝田、覃、中村、堀、山口、林、泉井、Intan、Sudirman、Lies、金(銀)、黄、小原、片山、佐々木(彩)、澤田、柴田、渋谷、千葉、藤、八鍬

#### 報告要旨

本論文は仮想水理論に基づき、輸入食料品の拡大によって自給率がますます低下している日本と水危機に直面しているにも関わらず大量な農産物を輸出している中国の農林水産分野の貿易について検討をおこなう。水管理の理論分析した上で、両国従来 of 農産品貿易のやり方を見直す必要性を指摘し、そして新しい協力的な貿易によって日中両国のパレート最適の達成を考えている。

## 質疑・応答

宮本：仮想水理論を提唱したのはどのような立場の人か？また、中国は北部が家畜、南部は水田が多いが、そうした状況はモデルに反映されているか？

林：仮想水理論を提唱するのは、ロンドン大学のアンソニー・アラン教授。食糧生産と水資源の場合、畜産とかは考えずに、穀物や野菜が主である。

木谷：水資源の問題があるから、中国へ輸出しよう。貿易において、水の価値が反映されていないということは分かった。しかし、アイデアが無い。例えば、日本の農地を中国が買って、農業をしようか。こういうイメージを、数値計算してみると面白い。

林：アイデアについては、今のところ持っていません。

冬木：1人当たりの水量の調査では、日本の水資源は豊富でないと聞いたことがあるが。

林：日本の1人当たり水量は3,300であるが、中国はその2/3位。国連の水準では、1,700以下なら水貧国と呼ばれており、日本は豊かである。また、日本は農産物を輸入しているので、あまり水を消費しない。

米倉：日本は四川に近い。四川は何千年も前に灌漑がきちんと整備されていた。スライド10を参照すると、データも日本と四川は近いようである。例えば、河南と四川の水の再分配モデルを考えるのはどうか？その上で、(次のステップとして)日本をモデルに巻き込めば良いのでは？

冬木：水のプライシングをきちんとすれば、市場が調節してくれるはず。そうなっていないということは、そこまで深刻な問題ではないとも言える。

林：水価格が高くなると、農民は苦しくなる。しかし、水質の問題は存在する。

冬木：林さんは、農民が農民でいてほしくないと言っていた。水価格が上昇すれば、(農民が他産業に移る為)市場の機能によって問題が解決するのではないか。

林：食料自給率の問題がある。それは、考えが極端すぎるのではないか。

北村：中国北部の農業生産が下がっていたとしても、それが日本の輸入に起因するものであると、どうして分かるのか？

林：輸入データが少ないので、(論証は)難しい。頑張りたい。

木谷：水資源の賦存量は分かっている。移動した後のバーチャルな水資源賦存量を産出してみようか？日本の水資源賦存量は、それを考慮すると、すごく多い。倫理的にこれで良いのかと、問題提起できる。